

教職大学院とその実習で学んだこと

吉田 光孝

(生徒指導力高度化コース第5期生)

1 理論と実践を通じた生徒指導の理解

教職大学院に在籍した2年間では、生徒指導について、大学院での理論的な学びを行い、それを前提としたうえで、実習における児童・教職員などとの直接的な関わりや指導を通して、その理解を深めることができた。

大学院では、児童発達や心理などの児童に目を向けた分野だけでなく、教職員組織、保護者や地域との関わり、さらには警察や少年鑑別所、少年院などと学校とのつながりなども学ぶことができた。生徒指導を学校教育だけという視点だけでなく、社会的・法的側面などの多様な文脈から大きく捉えられるようになった。

こうした大学院での学習やフィールドワークなどを経た上で、教職専門実習では現場の教職員の方々の指導や助言などにより、生徒指導におけるスキルを得たり、児童理解を深めたりすることができた。特に、生徒指導のスキルに関して、高度職業専門人としてプロの教員がもつスキルが、実際の指導で非常に有効であったことは印象深い経験の一つである。プロの教員の経験に裏打ちされたスキルは教員になろうとする我々が受け継ぐべきものだと感じた。

また、実習先の教職員との関わりを通して、多様な指導方法や指導観・児童観などを吸収するとともに、学校組織の一員として動くことの意味やその難しさも感じた。実習では、運動会や遠足などのさまざまな学校行事に参加する機会が多く、実習生でありながら教職員の一員という立場で、自分自身がどのように動けばよいか、自分の役割は何なのか、求められることは何かなどを考えさせられるよい機会となった。

さらに、二ヶ月間という長期間の実習ゆえに、通常の実習では見ることでできない児童や学級の様子の変化なども見ることもできた。実習では入学準備の時期から、複数の実習生とともに小学校の第一学年の各学級に入らせていただいた。そのため、小学校に入った1年生が刻一刻と変化していく様を見るときともに、学級開きについて知ることができたことは大きな意味があったように思う。

このように、大学院での学習と実習を通して、理論でしか学べない生徒指導、実践でしか学べない生徒指導の両面を学びえることができた。

2 教師としてのふるまい

実習では他に、教師としてのふるまいも学ぶことができた。実習では、学校教育に関わる一教員として動く必要があることがほとんどである。例えば、教職員の方々と話し合い協働するとき、朝の登校指導の際に保護者や地域の方々と接するとき、そして児童との関わる時などである。こうした機会には

教師としての意識を明確に持ちながら接することで、円滑な人間関係やほどよい緊張関係をもった関わりができることが理解できた。

児童や教職員保護者、地域の人々との関わりは、学校教育における指導という側面で考えれば、それほど関連がないものかもしれない。しかし、今の教員に求められる資質はそれだけではないことは周知のとおりである。これらの力は三石先生の御講演の中にもあげられる「多能専門職」と捉えられる。また、本大学院で定められた教職専門職基準試案における「保護者・地域と協働・連携する力」や「教職人としての基盤的能力」に関わる能力とも重なるものであり、職務を果たす上で必要な能力といえる。

3 学びのPDCA

以上のような学びを得られたのは、理論と実践を往還して行うことができる実習形態によるものだと思う。これを私は「学びのPDCA」と捉えている。大学院での理論的な学びを「Plan」とし、実習での実際の指導を「Do」、指導教員からの指導や評価を「Check」、そこから表出した実践的な課題に対する修正を「Action」とおくことができる。これらを行うことで、実習では自らが行った生徒指導をより質の高いものにすることができたように思う。実習やその後のボランティアなどを通して感じていたことだが、生徒指導は自己評価と他者評価での違いの差があることが多い。自らの児童観や指導観を学びのPDCAを通すことで、児童の新たな一面の理解や指導方法の多様化などにつなげることが期待できる。これは教職大学院の特色の一つである「理論と実践の往還」につながる重要な要素ではないだろうか。

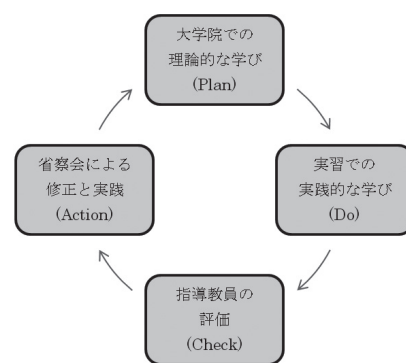


図1 学びのPDCA

4 おわりに

来年度からは現場の教壇に立つ予定であるが、今後は周囲から信頼される協働性のある教師を一つの目標に考えている。現在の教育を取り巻く問題の数々は、学校だけでは解決しきれないものも多くある。一人の教員だけでは限界がある。しかし、周りから信頼され、教職員の方々、保護者・地域の人々と協働できれば、児童の成長を支えることができるような優れた教員になれば、大学院での学びを通して確信している。周りから信頼されるためには、幅広い知識と経験に裏打ちされた指導力が必要だと考えている。また、前述した教師としてのふるまいやコミュニケーションなどといった、人とつながる力も同様に必要である。それらを身につけ、信頼される「人間教師」を目指していきたい。